

TECH未来通信

2023.JAN
VOL.054



〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学内20周年記念飯島同窓会館1階
042-316-6645 ✉info@techmirai.jp

TECH未来を使ってきた先生方(その34)

岩手県でのTECH未来

今回は、二戸市立福岡中学校の藤澤世志彬(ふじさわよしあき)先生にお話を伺いました。

藤澤先生は、今年度の学校公開研究会にて、授業者としてTECH未来を活用した実践を発表してくださいました。

そんな藤澤先生にインタビューしました。

—TECH未来を使用して何年目ですか？

4年目です。私が大学生の時に、岩手大学教育学部附属中学校の加藤佳昭先生の授業をみてTECH未来を知り、教員1年目からずっと使っています。

—具体的にTECH未来を使ってこれまでにどのような授業を実践してきましたか？

今の技術で大切にされている問題発見、課題設定、課題解決を「Cエネルギー変換の技術」で行う際の教材としてTECH未来を使用しています。1年目は地域の実態に応じて、「冬道を安全に走行できる自動車を開発しよう」というテーマで授業を行いました。2年目・3年目は少し幅を広げて「持続可能な世の中の実現」をテーマに製品開発を行わせました。題材の流れはTECH未来研究サイトにあるスタンダード指導資料を基本として、様々な先生方と交流をしながら改良を重ねてい



ます。

—今回、TECH未来を活用した授業を研究してみたいかでしたか？

今回3年生で統合的な課題解決をする際に、教材としてTECH未来を選びました。これにより、今回の3年生は2つの題材でTECH未来を扱ったこととなります。2年生の段階で動力伝達の仕組みをよく理解していた生徒は、統合的な課題解決をする際により高度な課題を設定し、チャレンジすることができていました。しかし、2年生の段階で動力伝達の仕組みの理解に置いてしまうと、課題解決の際に自分で解決までの手立てをイメージできず、解決すべき課題と自分ができることのギャップで苦戦していました。今回は、「Society5.0の世の中の具体化」をテーマとして生徒たちに学習に取り組みせました。私自身、非常に可能性を感じる授業実践となったので今後に生かしていきたいと思います。

—今後TECH未来でどんなことをしてみたいですか？

製品モデル提案を目的として題材を進めていると、3年間一度も製品モデルが完成せず、できたときの達成感・感動を味わえず技術分野の学習が終了してしまう生徒も少なくありません。もちろん私の指導不足もあると思いますが、文部科学省の目指すべき技術の授業を実現しつつ、「製品ができた!」という技術本来の良さも感じることが出来る題材を開発していけたらなと思います。

—最後に一言!

可能性が無限大のTECH未来という教材に出会えて本当に良かったです。全国の皆さんと交流して、生徒が楽しく成長できる授業をもっと作っていききたいと思います。ぜひよろしくお願いたします。

編集後記

さまざまな実践をしてくださりありがとうございます!どれも大変興味深いです!ぜひまた実践報告をお願いいたします!